

もっと自由な発想で考えたい 自分らしい葬儀スタイル

どんなに元気な人でも必ず訪れる人生のエンディング。それを考えることは、自分の人生を振り返るとともに、これからの時間をより充実させるための第一歩。もっと自由に発想をくぐらませれば、自分らしい葬儀がきつと見えてくるはず。



【利用者のニーズで多様化する葬儀スタイルの一例】



- A** 故人の好きだった花で飾られた祭壇
女性からの依頼が多く、故人の仕事・趣味・人柄などをイメージして祭壇全体をデザインすることもある
- B** メモリアルコーナーを設けた会席場
故人を偲ぶ品々などを飾り、洗練された空間でお別れの時を過ごしたいという要望も多い
- C** オーダーメイド料理
法事・法要では精進料理が中心だったが、最近では故人の好物などを取り入れた自由なメニューも増えている
- D E** 物語のあるセレモニー
故人の愛読書や嗜好品、写真、趣味のグッズを飾るなど、その人らしい葬儀を演出
- F** 故人を偲ぶ音楽の生演奏
「音楽葬」とも呼ばれ、クラシック・ジャズ・ロック・演歌などジャンルもさまざま

清月記の個人向け会員制度 メモリアルライフクラブ

いつかは必ず訪れる別れの時。日頃からできる範囲で葬儀に対する意識を持ち、もしもの時に備える、個人向け会員制度を利用する人も多いという。金銭面のメリットも魅力の一つ。

【会員制度の特典一例】

- 年会費・月会費等無料
- 積立金不要
- 葬儀費用の割引
- 仏壇・仏具などの割引



樹木葬型公園墓地
豊かな自然に囲まれ、好きな樹木の下で眠りたいという要望も多く、現地見学会なども人気



1日1組限定の家族葬ホール
大切な人との最後の時間を、家族や近親者で過ごしたいと、近年利用者が増えている

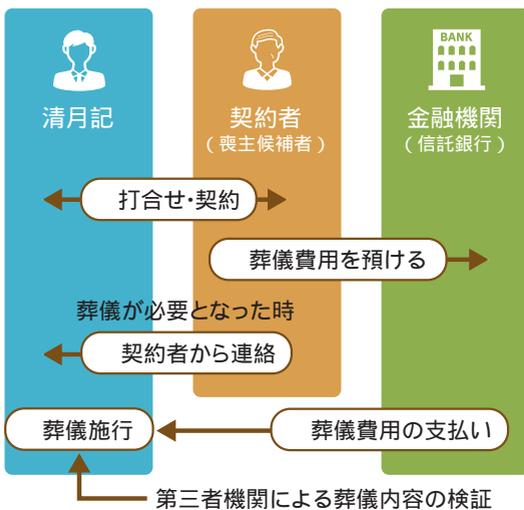
自分らしい葬儀を 安心して実現するための 葬儀用信託

事前に自分らしい葬儀の内容を決めても、それが家族や親戚などの負担になるのではないだろうか。特に心配なのが費用の問題。そうした不安を抱えるシニアのため、信託銀行の協力を得て開発されたのが清月記の葬儀用信託だ。

必要な葬儀費用を信託財産として預け、葬儀の終了後に清月記へ振り込まれる仕組みなので、家族や親戚への負担を少なくするだけでなく、契約通りに葬儀が行われたかも第三者機関がチェックしてくれる。また、血縁者がいなくても利用可能で、プランの内容もいつでも変更することができる。

葬儀用信託のメリット

- 葬儀の内容を事前に決定
- 家族・親戚への負担が少ない
- 血縁者がいなくても利用できる
- プランの変更がいつでも可能
- 葬儀の実施内容を第三者機関がチェック



葬儀が終わるまでを
自分の人生と考える

「終活」という言葉が定着していく中、葬儀資料を取り寄せるだけでなく、葬祭会館の見学会や事前相談会などにも参加するシニアが増えている。県内各地に葬祭会館を持つ清月記でも、無料相談を随時受け付けているが、申込者数は年々伸びているという。

「葬儀までが自分の人生であり、参列した方々に感謝の気持ちや伝えたいと考えるなら、その内容にこだわるのは当然のこと。ぜひ気軽に相談していただきたいですね」と語る清月記代表取締役の菅原裕典さん。相談することで自分が求めている葬儀のスタイルがより具体的にになるとともに、家族への負担を減らすことにもつながるため、事前相談などの利用を積極的に呼び掛けている。

不安と負担を軽減する
葬儀用信託を開始

近年、家族葬や音楽葬など葬儀の多様化が進んできているが、もっと自由な発想で葬儀を考えるべきと強調する菅原さん。「大切なのは、ご本人とご家族が納得できる葬儀であること。100人いれば100通りの葬儀があっていいはず。その一つ一つをしっかりと実現するのが私たちの役割」。宗教や地域性にも十分に配慮しながら、葬儀の意義と可能性を一緒に追求していきたいと考えている。

そのため、清月記では商品やサービスの充実にも努めており、葬儀用信託も来月からスタートする。事前に葬儀の内容を決め、その費用を信託財産として銀行に預けるもので、葬儀への不安と負担を軽減する新サービスとして大きな注目を集めそうだ。



清月記 総本社
仙台市宮城野区日の出町2-5-4
TEL.0800-888-5777
(無料フリーコール)

株式会社清月記
代表取締役
菅原 裕典 さん